

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集

さか たに ろう ろ
阪谷 朗廬

新高 高 早 倉 矢 井 浅 里 笠
見 梁 社 島 敷 掛 原 口 庄 岡
市 市 市 町 市 市 市 町 市



かつやく とし
活躍した年:

1822~1881年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

かんがくしゃ きょういくしゃ
漢学者、教育者



ゆかりのある場所:

- ふしうれきしみんぞくしりょうかん
・芳井歴史民俗資料館
- きゅうせいいたかはしちゅうがっこう
・旧制高梁中学校
- おうけいじゅく
・桜溪塾



さかたにろうろ ぶんせい ねん いま いばらしびせいちょう う
阪谷朗廬は、文政5（1822）年、今の井原市美星町に生まれました。

ちち とくがわばくふ やくにん おおさか す さい とき はは ちち
父が徳川幕府の役人になり大阪に住んでいたため、6歳の時、母につれられ父のもとに
い おのしょうざん べんきょう おおしおちゅうさいじゅく はい べんきょう
行き、奥野小山について勉強し、のちに、大塩中斎の塾に入って勉強しました。さらに11
さい とき えど い さかやせいけい こがとうあん まな
歳の時、江戸に行き、昌谷精溪と古賀侗庵にも学びました。

さい とき びょうしょう ははおや せわ ききょう だい
26歳の時、病床にあった母親の世話をするため帰郷しました。このころ、あちこちの
みょう まね はは しんばい こたわ
大名に招かれましたが、母のことを心配してすべて断りました。

かえい ねん いま いばらしよしいちようやなせ おうけいじゅく ひとびと がくもん
そして、嘉永4（1851）年に、今の井原市芳井町築瀬に桜溪塾をつくり、人々に学問
おし
を教えました。

かえい ねん りょうしゅ ひとつばしけだいかんともやまかつし まね がっこう ひら
嘉永6（1853）年に、領主である一橋家の代官友山勝次に招かれて、学校を開きました。
こうじょうかん のち こうじょうかんこうとうがっこう ろうろ こうじょうかん ねんかん おお ひとびと がくもん
これが興讓館（後の興讓館高等学校）です。朗廬は興讓館で15年間、多くの人々に学問を
おし どうほく きゅうしゅう おしえ う く おお にん
教えました。はるばる東北や九州からも教えを受けに来るほどで、多いときには100人を
こ
超えたそうです。

けいおう ねん しょうくんよしのぶ きょうと がくもんじょ こうぎ ろうろ
慶応2（1866）年には、将軍慶喜にまねかれて、京都の学問所で講義しました。朗廬は、
がくもん たん ちしき み ひの い みち まな と
「学問は単に知識を身につけるだけでなく、人の生きる道を学ぶことである」と説きました。
おしえ よ ひ つ きょうど きんだいにほん はってん こうけん ゆうのう
この教えはのちの世に引き継がれていき、郷土はもとより近代日本の発展に貢献した有能な
じんざい おお はいしゅつ
人材を多く輩出しました。